



Nannou 校長通信 No. 25

平和のメッセージ

目覚ましの音で目が覚める
 家族におはようと言う
 朝ご飯を食べる
 友達とくだらない話をして笑い合う
 バイバイと手を振り合う
 家に帰るとおかえりの声か聞こえてくる
 家族と机を囲みお喋りをする
 お皿いっぺいに詰まっただけ飯を
 口いっぺいにかき込んでゆく
 おやすみと言う
 暖かい布団に包まれて眠りにつく
 そんな毎日の日々が
 当たり前前と感じてしまっただけ時間が経っ
 まっただけ
 七十九年前この沖縄で多くの命が
 戦争という悪魔に奪われてしまっただけから

本県は、去る大戦において、一般住民を巻き込んだ国内最大といわれる地上戦の場となり、20数万の貴い生命やかけがえのない文化遺産を失いました。戦後79年を迎える現在、この歴史的な事実を風化させることなく次の世代に正しく継承していくことは、とても重要なことです。

そこで、沖縄県平和記念資料館が主催する第34回「児童・生徒の平和メッセージ」作品の募集があり、2年3組の玉代勢友華さんが「詩の部門」で応募しました。その作品を紹介します。

当たり前じゃ無い日々

沖縄県立南部農林高等学校 二年

玉代勢 友華

目覚ましの音で目が覚める

家族におはようと言う

朝ご飯を食べて「さますと言う

友達とくだらない話をして笑い合う

バイバイと手を振り合う

家に帰るとおかえりの声が聞こえてくる

家族と机を囲みお喋りをする

お四い、ぱいに話さったご飯を

口い、ぱいにかき込んでゆく

おやすみと言う

暖かい布団に包まれて眠りにつく

そんな毎日の日々が

当たり前前と感じてしまっうほど時が経ってし

まった

七十九年前この沖縄で多くの命が

戦争という悪魔に奪われてしまっった時から

空襲警報の音で目が覚める

また今日も地獄のようない日が始まる

たくさんの爆弾が飛び回る

たくさんの方が死んでゆく

真^っ暗なガマの中で恐怖に怯えながら

生きていくのに必死な日々

そんな日常が七十九年前の沖縄にはあつた

怖か^ったと思う

辛か^ったと思う

今じゃ考えられないほど

言葉じゃ表せられないほど

毎日が悲しみや苦しみで溢れていたと思う

当たり前だと感じてはいけな

毎日おはようと言えること

家族や友達と笑い合えること

ただいまと言うとおかえりという返事が返

ってくること

毎日ご飯をお腹いっぱい食べられること
おやすみと言えること

そして私達の命が

今ここで生きているということ

忘れてはいけない

七十九年前のこの島で

夢や希望に満ち溢れた多くの若者が

命を落としていったことを

忘れてはいけない

毎日の幸せな日々が

この戦争というものによって

奪われてしまったことを

私はこれからも守っていきたい

毎日が笑顔で満ち溢れたこの沖縄を

私はこれから作っていきたい

平和な世界を

十年後百年後千年後も

みんなが笑って過ごせるために